



写真：「甲斐駒ヶ岳秋の空」吉沢撮影

【巻頭言】

「共生キャンプ」の魅力を伝えたい

竹内靖子（桃山学院大学,本学研究員）



はじめまして。2015 年秋学期、坂本先生の研究室で研究員をさせていただくことになりました竹内靖子です。よろしくお願ひいたします。

筑波大学野外運動研究室の先生方、学生の皆さまに暖かく迎えていただき感謝です。早速 10 月、卒業論文中間発表会に参加し、大学院生・学部生の皆さんの研究、先生方のアドバイスを聞かせていただき、野外運動の魅力を感じ、発信する方法を学びたいとさらに強く思いました。

本務校（桃山学院大学、社会福祉学科、大阪）では、野外に関する業務としては、「オリエンテーションキャンプ」「オーストラリアでの共生キャンプ」に携わってきました。「オリエンテーションキャンプ」は、新入生全員がよい学生生活を送るための仲間づくりを目標に約 20 年続く伝統あるキャンプです。新入生約 100 名の中には、留学生、障がいのある学生が含まれます。2016 年 4 月、障害者差別解消法の施行に伴い、個々のスタイルを尊重したキャンプが、様々な場所で行われることが期待されます。

私自身も学生時代の野外体験が今の仕事スタイルや生活に活かされていることを実感しています。自然の中で、みんなの力を最大限に生かして、一つのキャンプを作り上げる共通体験のある学生とない学生では、他者との関わり方に違いがありそうです。しかし、参加していない人に野外活動からの学びや魅力を伝えることがとても難しい。特に福祉対象者になると、本人に加え、家族や関係者の不安を解消する準備をして挑むこととなります。

さらに、ボランティア活動として、NPO 法人キャンピズ（※障がいのある人のキャンプ支援団体 <http://campwith.jp/>）で、キッズ（ファミリー）キャンプを担当しています。このキャンプ参加者（5 歳～小学生）が今回の研究対象です。ハロウィン・キッズキャンプ（11 月 8-9 日）では、坂本先生にお越し頂き、参加者の家族会講師をご担当頂きました。描画法とアンケート、参与観察からデータを整理し、キャンプ参加者の変化を探る研究計画でしたが、子

どもたちよりも、保護者（特にお母様方）から「描画してみたい」との声が上がり、坂本先生とのお話を通して、客観的に子どもとの関係を見つめなおすことができたとのこと意見をいただきました。

様々な人との野外での共同生活を通し、「参加者」はもちろん、まわりの「家族」も「スタッフの私たち」もキャンプ中や日常生活での課題解決を目指す。そんなキャンプの必要性が伝えられるよう研究を深めていきたいと考えています。

【研究室近況報告】

○研究室浸水被害について

吉沢直（UG4）

9 月上旬に茨城県南部は記録的豪雨に見舞われました。つくば市内では大きな被害はなかったものの鬼怒川の決壊の影響で常総市などには大きな被害が出ました。被災地の復興をお祈りいたします。

被災地の被害に比べれば小規模ですが、実は我が研究室も浸水被害を受けました。夜の豪雨の間に野外運動研究室 5C310 教室付近の廊下に雨漏りが発生し、翌朝、室員が研究室に行くと 310 の床が一面水浸しになっていたそうです。その日の午前中は水の処理作業に追われました。大学事務の方々や井村先生も手伝ってくださり、（先生のご活躍ぶりはみなさんのご想像の通りです）なんとか被害を最小限にとどめることができました。



↑冠水する野球駐車場前

↓ボディボード綱希



<https://www.youtube.com/watch?v=T3SkrEhXBR4>

↑↑↑ 研究室内動画：
どんな時も決して楽しむ気持ちを忘れない中村綱希（UG4）

【正課事業報告】

〇UG 野外運動論演習 I (キャンプ)

木持雄大 (UG3)

[期日]2015年7月27日～8月2日

[場所]福島県南会津郡南会津町鳴沼及びその周辺

[指導者]渡邊、佐藤

[参加者]川原田、木持、前川、東野

UG キャンプ実習では、グループプロジェクト、マウンテンバイク、燧ヶ岳・至仏山登山、個人別自由活動、アドベンチャーキャンプ補助と多岐にわたる活動を行い、野外生活技術や指導法、安全管理等について実践的に理解を深めた。

グループプロジェクトでは、数年前に作成したテラスの修復、強化を行った。丸太を持ち上げたり、カマドウマが大量発生したりと、初めての4人の活動に苦戦を強いられたものの、なんとかテラスの土台を作り上げることができた。完成後に丸太が腐っていたことに気づいたのはここだけの話である。来年度以降にテラスの完成を託したい。

登山では、ルートを間違え、燧ヶ岳最大の難所であるナデッ窪をピストンするという前代未聞の登山ルートを辿ったが、平地での猛チャージによって予定時間通りに登山を終えることができた。「平地のマイコ」こと前川の底力に男性陣3人は度肝を抜かれた。山頂での壮大な景色や暗闇での蛍など、普段はなかなか感じることでできない大自然を肌で感じることで、大変貴重な経験になった。

今回のキャンプ実習は非常に充実したものになり、各々がいろいろなことを体験することができた。準備の段階から自分たちで計画を立て、計画したことを工夫しながら実践する経験はこれからの野外活動の糧となるものであった。12月に予定されている雪上実習に向け、今回の反省を生かし、しっかりと準備をしていきたいものである。



〇MC 野外教育実習 (キャンプ)

新井洸真 (MC1)

[期日]2015年7月27日～8月2日

[場所]福島県南会津郡南会津町鳴沼及びその周辺

[指導者]渡邊、佐藤

今回のマスター実習は、野外研のM1新井含めて、4人の参加者しか集まらず、例年に比べ少々寂しい人数でした。しかし、野外研の新井を筆頭に、個性

的なメンバーが集まり(しかも男だけ)、とても熱いキャンプとなりました。男のテント設営にはじまり、男の野外炊事、男の沢遊び、男の登山、男の個人別活動など、とにかく「男の」をつけて盛り上がり、あっという間の一週間でした。

普段ほとんど関わることのない4人の院生がこうして集まり、一つのキャンプという場を創り上げることは、何とも言えない心地よさがあり、「もっと大学院の友達を作りたい、作らなきゃ(外部生で、筑波大の友達が非常に少ない)」という想いも芽生えた実習でもありました。



〇体育センター キャンピング

大友あかね (MC2)

[期日]2015年9月21日～24日

[場所]筑波大学野性の森

[指導者]坂本、坂谷、向後(筑波技術大)、大友

共通体育の1つとして行われるキャンピング。「4日間で1単位」というおいしい条件に惹かれて集まった受講希望者は定員の倍近くであった。その中から抽選を勝ち抜いた23名を対象に野性の森にて実施された。キャンプ生活を重視したプログラムでありかつ、2日目には筑波山風返し峠までのグループサイクリング、3日目には班別活動と盛りだくさんの活動内容であった。班別活動では野性の森のきのこの植生を調べたグループ、立派な竹を農林センターから調達して流しそうめんを行ったグループなど、活動に前向きに取り組む姿が印象的であった。夏休みの最後に単位以上の何かをきつと得たことだろう。



筑波山に向け疾走する学生

○第3回卒業研究・修士論文中間発表会
西島隆成 (UG4)

[期日] 2015年10月8日 4,5限

[発表者] 大関、西島、吉沢、大友

第3回ということもあり、前回に比べて進捗は違うものの着実に進んでいるように見受けられました。また、今回は竹内先生と坂谷先生が中間発表会初参加で、そのおかげで質疑応答がいつも増して活発なものになりました。論文提出まで残りわずかなので、論文生一同手を取り合って全員でゴールできるよう頑張ります！

○日本野外教育学会 第18回大会in阿蘇
佐藤冬果 (MC2)

[期日] 2015年6月19日～21日

[場所] 熊本県阿蘇青少年交流の家

[参加者] 井村、坂本、渡邊、佐藤、大友、吉沢

日本野外教育学会の学会大会が阿蘇で開催され、先生方と3人の学生で参加してきました。同じ分野を志す学生仲間・先生方と出合い、じっくり話す機会が得られるのが、学会参加の大きな魅力だと思います。個人的には、後輩が増えてきた分、早く発表をする側の存在にならなければという焦りも感じる時間になりました。今年はM2大友が発表をしましたが、心から尊敬の気持ちがわかります。学群生の吉沢も、勇気を出して参加してくれました。「今の筑波野外研って、どんな感じなの？」と、卒業生はじめ、色々な人が気にしてくれています。本当に魅力的でいい



口頭発表する大友

メンバーが揃っているのに、表に出ていかなければそれは伝わりません。全国の野外仲間たちに、自慢の後輩たちを紹介できたことが、個人的には嬉しい時間でもありました。来年は静岡です。是非、一緒にいきましょう。

【課外事業報告】

○南会津アドベンチャーキャンプ2015

大関久仁 (UG4)

[主催] TOEL (Tsukuba Outdoor Education Lab)

[期日] 2015年8月2日～7日

[場所] 福島県南会津町針生地区 緑の広場周辺

[指導者] 渡邊、向後 (筑波技術大)、松澤 (みなみあいづ森林ネットワーク)、藤田、佐藤、末代 (追手学院大学大学院)、吉沢、大関、若林 (東京女子体育大学)

[参加者] 小学4年生・中学1年生 計49名

今回で4年目になる南会津アドベンチャーキャンプが行われ、49人の子供たちが参加してくれました。途中キャンプ長のまじんが班付きカウンセラーをするなど、当初の計画通りにいかない場面もありましたが、皆で協力し合い無事にキャンプを終えることができました。リピーターも多く、一年越しに見る参加者の成長に胸が熱くなる場面もあり、涙ありの感動的なキャンプでした。私個人としての第一の感想は、「学校の先生ってすごいな」「やはり子供は天才だな」というものです。班つきカウンセラーとして、8人の子供たちと一緒に活動しましたが、1週間でお腹いっぱいになりました。また、子供たちの発想、発見、行動から随所にユニークなものがあり、その度に感動し、学ばせていただきました。



あっという間に1週間がたち、保護者のもとへ帰っていく子供たちの姿を見ると、寂しくもあり、嬉しくもあり、とても朗らかな気持ちでした。今後もアドベンチャーキャンプが続き、さらに発展して欲しいなど願っています。私自身としても今年研究室を卒業しても、何らかの形でアドベンチャーキャンプと関わっていきたいと思います。

○藤村女子高等学校八ヶ岳キャンプ実習 大友あかね (MC2)

[期日]2015年7月6日～10日

[場所]藤村女子高等学校八ヶ岳学習舎

[指導者]渡邊、佐藤、藤田、大友、新井、大関、吉沢
野外運動研究室の夏の始まりを告げる藤村女子高校キャンプ実習。今年も3クラス58名を対象にキャンプ指導を行った。「4日目まではひたすら雨」「天候とは対称的に元気いっぱいキャンパーたち」「雨の中の設営」「寒すぎる沢遊び」「体育会系女子の本気を感じた料理コンテスト」また、「スタッフが整置の重要性を学んでしまった西岳登山」など今年も様々な出来事があったが、無事すべてのプログラムをやり遂げることができた。力不足を痛感しつつも、キャンプで学びを得るのは決してキャンパーだけではないと強く感じた5日間であった。少しの苦みといつかベンジしたいという想いが生まれ、それから申し送りだけはしっかりと、と今振り返って思う。



2015夏のメインメンバー

○競泳日本代表選手チームビルディング 佐藤冬果 (MC2)

[日時]2015年5月12日

[場所]筑波大学野外運動実習場「野性の森」

[参加者]競泳日本代表選手30名、コーチ10名

[指導者]坂本、渡邊、佐藤、大友



5年ぶりに競泳日本代表のみなさんが野性の森に来られ、若い選手からベテランの選手、男子選手女子選手、ごちゃ混ぜに編成された4グループに分かれてASE研修を行いました。あまり話したことのない選手同士もグループ内には居たようですが、会話をしたり、時には体を支え合ったり、まさに直接触れ合いながら、コミュニケーションをたくさん取る時間になったようでした。積極的に、時に笑いも交えながら課題に向かう姿を見て一瞬忘れかけて

しまいましたが、バックフライングで宣言されていた高い目標を聞き、改めて日の丸を背負って戦う選手であることを実感した一日でした。

○福島大学・慶應義塾大学バレーボール部 サマーキャンプ in 志田浜 新井洗真 (MC1)

[期日]2015年8月24-25日

[場所]福島県猪苗代町志田浜

[指導者]渡邊、坂谷、佐藤、大友、新井

福島大学および慶應義塾大学の女子バレーボール部の合同合宿の一部として野外活動プログラムの指導のお手伝いをしました。今回の野外活動プログラムの特徴は、陸でASEを行った翌日に、水上でのASEを行うという点です。いつもの野性の森での半日や一日のプログラムとは違い、「日にちをまたぐ」、「水上ASE」という要素が加わり、我々ファシリテーターにとっては、ちょっとした挑戦でもありました。初日は、現地で即席のASE施設を作りプログラムを行い、二日目の水上ASEで完結するというイメージを持って臨んだ本プログラムでしたが、二日目のプログラムは慣れない水上でのプログラムということもあり、プログラム内容については前日の夜も話し合いました。たき火を囲みながら、水上ASEのプログラムを考えるのはとても楽しいひと時でした。

勝負の二日目の水上ASEでは、ラフティングボートやインフレーターダブルカヤックを使用し、練りに練ったASEプログラムを行ったのですが、冷たい風に体温を奪われ、艇は流され…選手の体調を考慮し、プログラムを短縮せざるをえないという結末がまわっていました。

考えていたプログラムをすべてできなかったことは、多少心残りではありますが、志田浜の自然環境を活かした試験的な合宿で、水上ASEに挑戦できたことは大きな経験になったと思います。



水上プログラムの様子

○JFA S級コーチ養成講習会野外研修

[日時]2015年5月9日

[場所]筑波大学野外運動実習場 野性の森

[参加者]S級コーチ受講生23名

[指導者]渡邊、佐藤、藤田、大友

○TSI 野外パーティー

[期日]2015年7月16日

[場所]筑波大学クラブハウス

[指導者]渡邊、坂谷、新井、大関、吉沢

○下妻第一高等学校バスケットボール部 野外研修プログラム

[期日]2015年8月23日

[場所]筑波大学野外運動実習場 野性の森

[参加者]同校バスケットボール部 40名

[指導者]坂本、坂谷、大友、新井、吉沢、佐藤

○TS TECH CO.,LTD.

Outdoor Training program

[期日]2015年8月26,27日

[場所]筑波大学野外運動実習場 野性の森

[参加者]TS TECH株式会社

第3期TS CAMP参加者 24名

[指導者]渡邊、藤田、佐藤、大友、新井、大関、
吉沢

○株式会社パル グループワーク研修

[期日]2015年9月5日

[場所]筑波大学野外運動実習場 野性の森

[参加者]株式会社パル 社員 35名

[指導者]坂本、坂谷、佐藤、大友、新井、藤田

○土浦第三高等学校陸上部チームビルディング

[期日]2015年10月23日

[場所]筑波大学野外運動実習場 野性の森

[参加者]同校陸上部 15名

[指導者]坂本、新井、吉沢

【個人実践報告】

○男子ラクロス部1年生ソロプログラム 吉沢直 (UG4)

[期日]2015年7月23-24日

[場所]福島県南会津鳴沼周辺

[参加者]筑波大学男子ラクロス部1年生5名

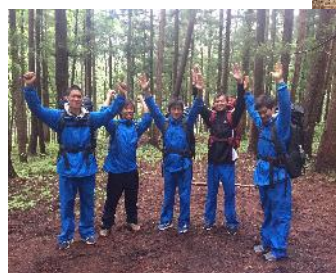
[指導者]吉沢、大関、渡邊

個人実践として、筑波大学男子ラクロス部1年生5名に対し1泊2日のソロプログラムを行いました。ソロとは自然の中で一夜を一人きりで過ごすプログラムです。本プログラムは、吉沢の卒業研究の実験も兼ねて実施されました。参加者は午後3時から翌朝午前9時までを森の中で、一人きりで過ごしてもらいました。強く雨が降る時間帯もあり、火が起こせずご飯が炊けず食事に取りつけない、簡易シェルターの中で寒さに震える等、数々の濃い体験があったようでした。今後の彼らの活躍につながってくれたらと思います。(後日、ラクロス部は3部優勝し2部昇格を果たしました。もしかしたら…???)

私自身初めてプログラムを運営してみて、非常に学ぶことの多い実践になりました。参加者を守らなければいけない責任感を感じながらも冒険的要素を持つことを怖がらないこと、予想できないトラブルに見舞われたときにとにかく落ち着くことなど、実際にそういった立場、状況になってみて、初めて理解することが多くあったと思います。指導者自身も体験的に学んでいき、それが一番力になることを身をもって知りました。今後の実践に活かしていけたらと思います。



↑ソロ事前指導の様子



←無事生還した参加者

○甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳登山

新井洸真 (MC1)

[期日]2015年10月24-25日

[参加者]新井、吉沢

大学院試験が終わり、どうしてもなく山に登りたくなっていた吉沢が、新井を誘い、実施に至った本ツアー。紅葉の時期は終わりかけていたものの、晴天に恵まれ、絶好の秋晴れのもと、二日間の山行にいいきました。

こう書くと、さぞかし楽しい登山になったのだろうと予想できますが、新井は実は甲斐駒ヶ岳にトラウマが…

小学生のころに父に連れられ11月の甲斐駒ヶ岳に挑んだのはいいものの、やたらザックの中でスペースだけはとる黄色の寝袋(通称バナナ)が、夜の寒さをしのいでくれず、一晩中寝れずに苦しんだことが思い出されます。

そして、今回も悪夢が。初日に登った、甲斐駒ヶ岳はスイスイと絶好調に登り、絶好の景色を楽しんだものの、二日目に落とし穴が待っていました。状態が思わしくなかった左ひざにはテーピングをしていたものの、テーピングをしていなかった右ひざが、



仙丈ヶ岳途中で悲鳴をあげ、一人悲しく先に下山というバッドエンドが今回も起こってしまいました。

日ごろ運動をしていない身体は、もう若くないと思いきらせてくれた、悪夢続きの仙丈ヶ岳。日ごろから運動をして、また登りに来ると、元気ハツラツな後輩の背中に誓った登山となりました。



クライマー新井

甲斐駒ヶ岳山頂にて



～ふゆりん留学報告～

佐藤冬果 MC2 (大学院4年目)



旅立っていくふゆりん

2015年10月12日～2016年1月2日の期間、「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」という奨学金の支援を頂きながら、アメリカ合衆国オハイオ州立大学 (OSU: Ohio State University) で Adventure-Based Learning (ABL) を専門にしている Sue Sutherland 先生のもとで短期の研修 (Visitor) という形で勉強しています。主に ABL 授業の見学をしながら、文献と向き合う日々です。Outdoor Adventure Center という OSU の施設で、指導者養成講座を受講したり、クライミングしたりもしています。

この原稿を書いている今は、こちらに来て28日目です。英語力は相変わらずですが、定型文を覚えつつあるので、悪戦苦闘していたカフェの注文やバス通学などの生活面はだいぶ慣れました。ヒヤリング能力は、「先週よりマシだ！聞き取れる！」と調子に乗っては、「勘違いだったか。」と現実を突きつけられる、の繰り返しです。それでも、日本各地の大学から来ている日本人留学生や、日本語を学ぶ各国の外人さん、同じ授業に参加する OSU 学生の友人もでき、毎日が新しい出会いや気づきに溢れています。

初めに、生活の中で感じる些細な気づきをいくつか報告します。まず、研究室の後輩たちに蔓延する「ふゆりん体型イジリ」をアメリカ人はしてくれません。バスで、普通に座っても2人分の横幅スペースが埋まってしまう人、前の座席との間隔?にお腹が入り切らず座れない人…と、ツワモノがゴロゴロ居るこの国において、座席一人分に収まることのできるふゆりんの肉付きレベルでは、ぼっちゃりキャラにさえなれません。体型の話になっても、返ってくるのは「You're petite!! (小柄)」です。なので最近は、「子ども扱われる」というイジられ方になりました。とても26歳を目前にしているように見えないようで、皆で集まった時、夜になると「Fuyu, It's your "Bed Time"」(良い子は寝る時間ですよ的な、子どもに向けて言うセリフ)なんか言われてイジられています。ふゆりんがイジられキャラになるのは、万国共通のようです。

真面目な気づきを話すと、小学校で習った「なんちゃらのサラダボール、アメリカ」を実感することが多いです。友人と集まってご飯を食べたりするとき、肌の色も、国籍も、血統? (〇%は他の国の血が入っているとか)も、性別? (LGBTQI 的なこと)も、とにかくものすごい多様性です。これが島国日本との違いか、と思われれます。

また、日本から持ってきたシャンプー類が無くなったのでこちらで買ったものを使い始めたら、自分の体から異国の匂いがしてきて、これが海外「旅行」でなくて「生活」なのだ改めて感じたのも、ついこの頃です。

前置きが長くなりましたが、留学で学んでいること自体は帰国後の報告でじっくり振り返ることとして、今回は、留学したいと言い出してから2年半、ついに出国して生活が安定した今、痛烈に感じていることを報告したいと思います。それは、「人との縁こそ人生の宝である」ということです。

留学が決まるまで、私が何とかアメリカに渡れるように、筑波の先生方はじめ、色んな大学、機関の先生方が直接アメリカの機関に受入依頼をしてくださったり、現地と繋がりのある他の先生を紹介してくださったりと、本当に親身になって力を貸して下さいました。留学したいと言い出したことで、私の味方になって助けてくれるたくさんの方々とお会いすることができ、そんな方々との繋がりでお出来た“網”みたいなものがふわ～っと私の周り



クライミングふゆりん
(写真下 中央が本人)

に出来て、それに包まれて、アメリカまで連れてきてもらったような感覚でいます。

「人に頼る前に自分で何とかしろ！」と思いがちで、人に頼る、甘えることが苦手な私にとって、ここに至るまでの時間は、「私は相手に何も貢献していないのに、こんなにも助けてもらえるんだ」と、業界の先生方の温かさを感じた時間でした。

こちらに来てからも、困った時には、その網に助けられています。例えば、「あの施設の見学がしたい！」という時に、英語もろくに話せないただの院生がスムーズに受け入れて貰えるのは、そういった先生方が事前に先方に連絡をして、私を紹介してくださっているからです。

そして不思議なことに、こちらで過ごす中で、何か1人ではどうにもならない問題が起こった時、タイミング良くそれを解決に導いてくれる新しい存在に出会う、ということが何度も続いています。宗教とか信じたことのない私が、神様がどこかで私を見てくれていて、私が困ると最適な助っ人を送りこんでくれているんじゃないか…なんて思うほどです。泊まったホテルのフロントで挨拶だけした人、同じパーティーに参加していて顔だけ見覚えがあった人…、そんな人が、ある時突然に救世主に変わります。どんな些細な出会いでも、大事にしないといけないな、と思う毎日です。

思い返せば、日本の先生方との縁も、こちらで出来た縁も、きっかけは勇気を出して出掛けた先でのちょっとした挨拶からでした。学会参加など、実は気が進まないこともありましたが、それ以上のものを貰っていたのだと実感します。人との出会いは後々、野外をやる/やらないに関係なく、何かしら自分を助けてくれる存在に変わる可能性を秘めています。帰国したら、今まで以上に後輩たちを誘って、外に出て行きたいと思っています。覚悟してください。(修論のことは忘れていません。やります。井村先生、安心してください。)

11月はOSUでABLとOutdoor Pursuitsの授業を見学し、12月からは、Ohioの学会、Indianaでキャンプ協会のカンファレンスや、NYでスキーキャンプのスタッフなど、いろいろ飛び回ります。Ohioの学会では、Sue先生の共同発表者としてABL実技の指導をすることになりました。日本でやり慣れたアイスブレイキング1つと、UF0(こちらではHelium stick)の指導をするだけなのですが、英語ということで、とてつもない不安感を抱えています。とりあえず、1週間後にリハーサルがあるので、今原稿を作っています。UF0指導のために原稿を作るのも、本番3週間前にリハーサルするのも、初めてです。研究室では偉ぶっていますが、ここでは、ペアでアイスブレイキング指導をすることになった5つも年下の大学2年生の男の子に、指導法を聞きまくるふゆりんの姿が見られます。

長くなってしまいましたが、そんな風に、ふゆりんは元気に過ごしています。出国前は「とりあえず3か月耐え抜いて帰ってくる！」なんて言っていたアメリカですが、今は、あまりにも時間の流れが早くて、こんなに幸せな環境に身を置ける残りの時間が限られていると思うと、焦りを感じます。帰国のことを考えると、すでに泣きそうです。この3か月のうちに、英語力しかり、野外力しかり、できる限りパワーアップしたいと思います。そして、今の私は何の貢献もしていないにも関わらず、「あなたのような人がキャンプの業界に居てくれるのが嬉しい」「10年後に、佐藤さんがどんな指導者になって活躍しているのかが楽しみ」と、温かい言葉をかけて、将来の私に期待を込めて力を貸して下さった先生方を裏切らない為にも、今は、人に助けもらうに相応しい自分で居なければ、と思いますし、帰国後こそしっかりやらなければ、という気持ちも、こちらで固まりつつあります。日本ではそこそここの現場でも戦えるつもりになっていましたが、こちらに来て、自分は野外のことを何も分かっちゃいないな、と、圧倒されて無力感を感じることもあります。部分部分を見ると、敵いっこない人材がたくさんいる中で、自分はどんなタイプの指導者になれば、この世界でやり続けられるんだろう、なんて考えながら過ごしています。

帰国した時には、少し大人になったふゆりんが研究室に顔を出さずと思うので、みなさん、その時は温かくイジってください。

【編集後記】

ニュースレター11月号を編集しました新編集担当のUG4年、吉沢と申します。先日の大学院試験に合格し来年度以降も野外運動研究室で学ぶことになりました。院生として野外研を支えられるように頑張ります。野外研の「今」をもっと知ってもらえるようなニュースレターを作っていきたいと考えています。あたたかく見守ってください。

ところで皆様、野外研のFacebookページができたことをご存知でしょうか？ホームページの更新、NWの発刊のお知らせなどをしていきます。ぜひそちらの方も「いいね!」「シェア」の方もよろしくお願いします。



イニシアティブゲームの授業風景